

No. 1205

球音

中日ドラゴンズ

4月の開幕をめざし、キャンプにも一段と熱が入るプロ野球各球団、静岡県・浜松市営球場では中日ドラゴンズが激しい闘志を見せている。足首を強くするための素足のランニング。腰をきたえる独得の練習法。選手は休む間もない。エース鈴木孝政は今年も健在。背番号28はドラフト1位、都裕次郎投手。

ベテラン高木、今年にかける井上、2年連続首位打者をねらう谷沢。昨年の新人王田尾、皆んな元気だ。そして大物助っ人ウイリー・デービス。軽いトスバッティングだが、球をとらえる瞬間鋭い目が光る。好調な打撃陣に与那峰監督も満足そう。阪急からトレードした森本の加入で三塁は激烈なポジション争い。大島も必死だ。「優勝」の二文字に向けて厳しい練習を展開する中日ドラゴンズだ。

質屋

質屋の店の奥。あわれ流れた品物が業者に下取りされていく

時計あり、カメラあり、電化製品あり、山積みされた品物にも世の不況がはっきり表われている。

質屋といえば昔から暗いイメージを持つ。そこには人生裏街道をゆく人々の生活があった。そんな暗さを感じさせない質屋が東京、高田馬場にある。

この質屋の店内はオフィスを思わせるほど近代化されている。おしぼりをはじめ、無料のコーヒー、お茶、たばこと銀行顔負けのサービスが整えられている。こうした店の女主人の商売が受けて、あぶないと言われた質屋も庶民の人気になった。

近頃では人目を忍ぶ利用者はめっきり少なくなった。質蔵には時代を反映してオーディオ製品が並ぶ、この質屋ではじめてとり入れたゴルフの会員券など有価証券も多くなった。不況になると高価な質草が入るといふ。

ミンクのコートをはじめ毛皮類、中にはイタリアの画家、モジリアニの時価3500万円もする名画もある。1日平均260人から300人位利用する。天井知らずの狂乱物価が庶民をもうひとつの銀行に走らせる。質屋には言わば乱世悲喜劇の縮図がある。